



1 世界と戦うチカラ

2 企業が多摩美に期待すること→オリンパス、味の素



世界と戦うチカラ

あらゆる分野でボーダーレスの加速する昨今、クリエイターにとっては今後ますます国際的な活躍が期待できる時代を迎えています。海を超えてダイレクトにその価値を共有できる創造のチカラ。それが世界と戦う武器として最大限に生かせるよう、本学で行われている実践的教育の現状を、受賞などの成果と共にお伝えします。



学内の国際交流会「Hot & Cool Design Night」で学生達の発表を見守るヴァーリヘイ・ユディト先生(左)と、アメリカの名門大学アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン教員のPenny Herscovitch先生(中央)とDan Gottlieb先生。(P9参照)

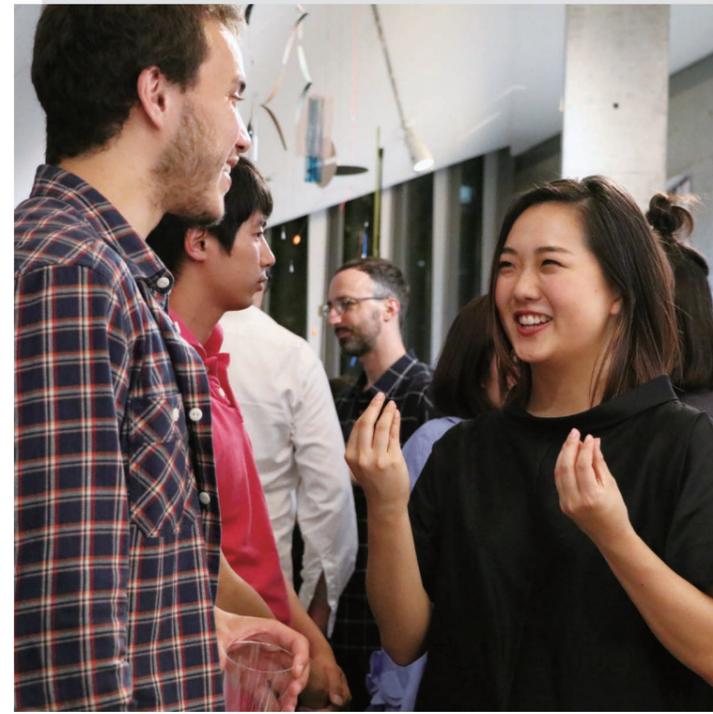
海外名門大学との協働や交流

世界水準を自分の中にセットする▶P.4

直島の観光客が使う食器を、プラスチックから自然素材に
 油画の学生も、日米協働のデザイン課題に挑戦



ノルウェーの公的機関の助成を得て始まった4年間の協働研究交流
 2016年に制作した椅子が全米コンペ学生部門で受賞



世界的な名門美大とのコラボレーション

国際性は日常で磨かれる

留学生として海外へ、また海外から多摩美へ▶P.8

隔週水曜開催・参加自由の学内交流
 “Hot and Cool Design Night”



世界トップクラスの美術大学へ
 交換留学生派遣の実績



年間435名の留学生を受け入れ、学内外に交流の場
※2018年5月1日現在

目的に対応した語学教育

TOEIC®から海外コンペ対策まで▶P.10

就職や留学などのゴールに合わせて
 組むことのできるカリキュラム



ロードマップ②
※ここでは単位数とは別に、英語力をアップするための方法を紹介しています。このページがスタートラインと目標

目標	出発点	1年次	
スタートラインと目標	CASECスコア	※2コマ推奨	
アートやデザインに関連した英語を学びたい	TOTALスコア 350点以下	英語(ベーシック)TJ <small>英語(ベーシック)TJ 英語(ベーシック)TE</small>	英語(ベーシック)TJ <small>英語(ベーシック)TJ 英語(ベーシック)TE</small>
	TOTALスコア 351~579点	英語TJ <small>英語TJ 英語(アドバンス)TJ</small>	英語TE <small>英語TE 英語(アドバンス)TE</small>
	TOTALスコア 580点以上	英語(アドバンス)TJ <small>英語(アドバンス)TJ 英語(アドバンス)TE</small>	英語(アドバンス)TE <small>英語(アドバンス)TE 英語(アドバンス)TE</small>
英語が苦手 もう一度基礎を学びたい	TOTALスコア 350点以下	英語(ベーシック)TJ <small>英語(ベーシック)TJ 英語(ベーシック)TE</small>	英語(ベーシック)TJ <small>英語(ベーシック)TJ 英語(ベーシック)TE</small>
	TOTALスコア 351~579点	英語TJ <small>英語TJ 英語(アドバンス)TJ</small>	英語TE <small>英語TE 英語(アドバンス)TE</small>
	TOTALスコア 580点以上	英語(アドバンス)TJ <small>英語(アドバンス)TJ 英語(アドバンス)TE</small>	英語(アドバンス)TE <small>英語(アドバンス)TE 英語(アドバンス)TE</small>
留学したい	TOTALスコア 350点以下	英語(ベーシック)TJ <small>英語(ベーシック)TJ 英語(ベーシック)TE</small>	英語(ベーシック)TJ <small>英語(ベーシック)TJ 英語(ベーシック)TE</small>
	TOTALスコア 351~579点	英語TJ <small>英語TJ 英語(アドバンス)TJ</small>	英語TE <small>英語TE 英語(アドバンス)TE</small>
	TOTALスコア 580点以上	英語(アドバンス)TJ <small>英語(アドバンス)TJ 英語(アドバンス)TE</small>	英語(アドバンス)TE <small>英語(アドバンス)TE 英語(アドバンス)TE</small>

日本を代表する作家たち

世界で活躍する卒業生▶P.12

文化庁「新進芸術家海外研修」に
 直近8年間だけで約50名が選出



海外名門大学との協働や交流 世界水準を自分の中にセットする

世界と戦える人材を育成するために、海外の名門美術大学との取り組みを通じて、技術や知識にとどまらず、精神面においても常に世界水準を意識する姿勢を育てています。

日米の学生がペアで、3ヵ月間 課題解決や価値の創出に 取り組む国際プロジェクト

●アメリカ ● アートセンターとの協働 | プラスチックごみの課題に挑戦

直島の観光客が使う食器を、プラスチックから自然素材に

参加学生=プロダクトデザイン2年 森田留奈さん、アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン(以下 ACCD)プロダクトデザイン JIMENEZ Alejandroさん

発表だけで終わらず、実用化させ、プラスチックごみを減らしたい

世界を代表する現代アーティストや建築家による作品・建造物があり、「瀬戸内国際芸術祭」の舞台の一つとしても知られる直島。開催時には世界中から多くのアートファンが訪れます。森田さんとアレックスさん(JIMENEZさんの愛称)はこのプロジェクトで直島を訪れ、芸術祭の期間中、観光客が購入する弁当やファストフードなどから大量のプラスチックごみが発生することに着目しました。直島ではもともと、古い空き家に現代アートを足すことで新たな魅力を生み出すといった試みを積極的に実践しています。古いものを生かそうとする一方でごみの問題を抱える背景から、「再生可能な食器」の発想が生まれました。「食材を余すことなく感謝していただくという日本の精進料理の考え方に着想を得て、「何も捨てない」ことをテーマにしました。ごみを出さない生活スタイル

の提案です。また、直島を訪れた時に感じた地元の人たちの強いコミュニティを基点に、ここで働く人と訪れる人々とを“食”という“縁”から結び付けたい。さらにその先に広がるコミュニケーションを目指しています(アレックスさん)」。プラスチックごみの問題が世界中で議論されている今、アートを目的に、「さまざまな国から偏りなく、大勢の外国人観光客が訪れる直島だからこそ意味がある」と感じている二人。当初は話せなかった英語も、必要に迫られ自然と身についたと言う森田さんは、「残る課題はいかに大量生産を可能にするかですが、実現すれば必ずプラスチックごみは減少します。来年は3年に1度の瀬戸内国際芸術祭の年。私たちの提案は主催者の方にも注目いただいているのですが、ぜひこれを実現させ、自分たちの提案を直島から世界に発信していきたいですね」と、今後の夢を語りました。

アメリカの名門大学アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン(ACCD)との国際協働教育プロジェクト「バシフィック・リム」は、2006年に始まりました。日米相互に3ヵ月間滞在しながら世界各地を視察し、環境問題を考えたり伝統文化などの体験を経て課題や潜在的価値を見つけ、デザイン提案までを行うものです。企業や政府関係者からの関心も高く、さまざまな取り組みを行ってきました。



「Ten Kitchen 円キッチン」 「何も捨てない」ことをモットーとした、自然素材で再生可能な食器類。無駄を作らない生活を生み出すとともに、地元の人と島を訪れる外国人の絆を深め、そこから広がるコミュニケーションを提案しています。



ペアを組んでの感想は? プロジェクト開始当初、参加学生同士でポートフォリオを見せ合う機会がありました。それを見て、二人ともリサイクルへの興味と、持続可能なプロダクトのための素材に対するこだわりが同じであることを知り、意気投合。「考え方が似ているので、私たちの協働はスムーズでした。プロジェクトを通してこうした仲間と出会えたことは、幸運だと思います(森田さん)。

アートセンターから学部長も来日。日本語と英語で行われた中間発表会



今年度のテーマは「Taste Making Tokyo」。未来の食事や食文化を見越した革新的なデザインを生み出そうというもので、デザインする領域は、食事をする環境をはじめ、使用する器や道具、行事や作法にまで及びます。9月1日より約2週間、情報収集のために実施された視察(フィールドトリップ)からスタートし、今回アメリカから参加した12名と多摩美の学生10名とが2人1組のチームとなって、課題に取り組みました。

10月23日に八王子キャンパスで開催された中間発表会には、アートセンターからDavid Mocariski学部長も来日。22名10チームの学生は、英語と日本語で作成したポスターや映像資料を用いながら、この2ヶ月間で取り組んできた成果を発表しました。発表後の講評会では、日米両国の教員陣や学生が、作品の前に意見を交わしました。この日の評価を受け、学生たちは12月5日の最終発表に向けてさらなる改善に励んでいました。



「Reveal Taste 心満たす時」 チームパートナーはCOPPENRATH Skylerさん(ACCD・プロダクトデザイン)。中間発表では、「食後の心を満たす和菓子」を包むための和紙を提案。パッケージ作りには、テキスタイルデザイン専攻の教員からの協力を得て、紙漉きから行いました(最終発表時は「HITOKAKE ひとかけ」に改題)。

●アメリカ ● アートセンターとの協働 | タイの伝統工芸をアップデート

2016年に制作した椅子が 全米コンペ学生部門で受賞

参加学生=プロダクトデザイン4年 津野田あゆりさん

2016年度の協働プロジェクトで津野田さんが発表した作品「Sai」が、IDSA(アメリカ・インダストリアル・デザイナー協会)主催のIDEA(インターナショナル・デザイン・エクセレンス賞)学生部門にて金賞と特別審査員賞を受賞しました。「もともと日本の伝統工芸を国際製品市場につなげることに興味があり、タイの伝統工芸が題材のプロジェクトでしたが、伝統工芸であることには変わりはないので、参加しました。英語を通じて人と作品を

●アメリカ ● アートセンターとの協働 | 和菓子を引き立たせる新しいパッケージを提案

油画的な学生も、日米協働のデザイン課題に挑戦

参加学生=油画3年 三澤紅音さん

専攻に関わらず、すべての学生に海外との協働の門戸は開かれています。「普段とは違ったいろんな表現の形を探すため、異分野に飛び込んでみようと思ったのが参加へのきっかけです(三澤さん)」。独学で英会話を習得していた三澤さんですが、言葉以上の壁を感じました。「私は、アイデアは出せてもその先のデザイン的なプロセスが分かりません。また、パートナーとのコミュニケーションギャップが思わぬ壁となりました。“感動”を付加したい私

とは異なる合理的な判断、マイペースでつかみづらい行動など、前提から違うんです」。しかしこのような経験は、将来どんな業界や立場でも体験することだと考え直し、デザインの部分はパートナーに頼り、紙漉きや自身が得意とする表現の部分を担当するなど、お互いの良さを引き出す工夫で前に進めました。自分を客観視することが大きな糧となったと語る三澤さんのように、学生はそれぞれ多様な目的で挑戦しています。



「Woven Stories 「Sai」」 チームパートナーはMathew Simonさん(ACCD・プロダクトデザイン)。タイ・チェンマイの伝統文化を世界に広く発信し未来につながることを目的に、地元の木彫りや機械職人の仕事から着想を得て、現代的な造形とコンバクトに梱包可能な形状にデザインしました。当日受賞を知った津野田さんは現場でスピーチを考えることに。

作るということも、いい挑戦になったので。一人で作るなら好き勝手にできますが、協働となると、相手を受け入れつつ自ら主張することも必要です。言葉はもちろん、スケッチしたり作って見せたり。説得する力の必要性を学べたことが大きかったです(津野田さん)。プロジェクト終了後に、応募を提案したのはパートナーのSimonさん。そうした後押しもあり、世界への挑戦というプロジェクト以上の成果を得た例となります。

担当教員インタビュー プロダクトデザイン 和田達也教授

世界を相手にした時に必要となる精神面の強さや取り組みの姿勢を、早い段階で知る大切さ

プロダクトデザイン 和田達也教授=1981年多摩美術大学プロダクトデザイン卒業。同年、日立製作所デザイン研究センター入社。1992年株式会社ジープラス設立。2001年より日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞審査委員。2008年より多摩美術大学生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻・学科長に就任。

目的は異文化を学ぶということ

このプロジェクトの目的は、異文化を学ぶということです。アメリカのトップスクールの学生たちがどんな覚悟で取り組んでいるか、その文化や精神面の強さを早い段階で知ることは、学生にとって大きな糧となるでしょう。例えば、アメリカ人にとっては相手に伝わりやすいプレゼンなんて当たり前で、勝つためのプレゼンを行います。その圧倒的強さに、学生たちは刺激を受けます。今後どんな道に進もうと、活躍するフィールドが海外となったときに、この「英語

による協働」というプロジェクトでの経験とノウハウを生かせることを目指しています。

どんな環境にも対応できる真の自立を促す

日米の学生同士マンツーマンの取り組みなので、逃げ場がありません。相手を理解し協力し合わない、先に進まない。いい化学反応を起こすこともあれば、葛藤を生む場合もある。ですが、まさにそれを学んでほしいのです。社会に出たら必ず体験するであろうことを、学生のうちに経験できる貴重な場だと思います。



「この12年間の経験によって、海外の学生が滞在し協働するために必要な工程がノウハウとして培われている」と語る、和田先生。協働だけが目的だけでなく、学生同士が親睦を深め、互いの文化やアイデンティティを理解する工程も、プロジェクト推進に欠かせない要素としてデザインされています。

多摩美に限らず、日本の学生は精神的な自立に欠けています。国際人である前に、まずは自ら考え、伝え、動く力、つまり「生きる力」を持つ必要があります。このプロジェクトを通して刺激を受け合いながら、どんな環境でも自信を持って戦える力を養ってほしいことを望んでいます。

世界各国の美術大学と協働研究やコラボを行う学学連携プロジェクト

前ページのACCDのみならず、本学は世界中のトップレベルの美術系大学と協定校（P8-9参照）関係にあり、さまざまな交流を図っています。コラボイベントの開催ほか、長期にわたる協働研究や永続的な取り組みもあり、いずれも実践を通してグローバルな意識を培っています。こうした教育が実を結び、近年は海外企業との連携やコンペでの受賞、展覧会への招待参加などの実績も増えています。

●ノルウェー● オスロ国立芸術大学との交流 | 2018年10月

ノルウェーの公的機関の助成を得て始まった4年間の協働研究交流

オスロ国立芸術大学デザイン学科との国際交流プロジェクト、『Connecting Wool』が、2018年10月から始まりました。これはノルウェーの公的機関（ノルウェー教育国際協力センター）から人物相互派遣を通じて国際交流を促進する「SIU-UTFORSK パートナシッププログラム」の助成を受けて進められています。ノルウェー北部で繁殖している羊をテーマに、その新しい活用方法の提案を目的とするもので、日本のテキスタイルテクノロジーに着目したKirsti Bræin 教授から協力の要請を受けたことからスタート。本学の生産デザイン学科が参画し、素材研究をベースにデザイン提案までを行うプロジェクトとして、今後4

年間にわたって実施されます。テキスタイル・インテリア・ファニチャー・ファッション・アートなどの領域においてさまざまな協働をしながら、両校の交流を深めていきます。取り組みの第一弾として、本学の学生8名（テキスタイル4名、プロダクト4名）と教員2名がノルウェー各地を訪問し、羊の繁殖地や農場、羊毛関連企業や紡績工場の視察を実施。オスロ芸大の学生7名と本学学生とがペアになって課題に取り組み、集中的なワークショップと発表を行いました。来春は東京での取り組みを計画。ノルウェーの協力企業でのワークプレースメント（就労体験型学生派遣）なども予定されています。



●スイス● ローザンヌ美術大学との交流 | 2017年5月、2018年11月

世界的な名門美大とのコラボレーション

世界屈指の名門美大として知られるローザンヌ美術大学（ECAL）と本学は、交換留学やヨーロッパでの展示発表の場などを通して、交流を深めています。2017年5月には、六本木の21_21 DESIGN SIGHTにて、ECAL工業デザイン学科の学生と生産デザイン学科の学生による交流イベントを開催。ECALの学生たちが日本での研修を経て取り

組んだ制作の成果を、本学学生たちの作品と共に展示しました。また、ECALより3名、本学より4名の学生が参加して、スイスと日本それぞれの文化や教育、デザインについて、活発に意見を交わす公開ディスカッションも行われました。これらの進行はすべて英語で行われ、両校は二カ国間の文化の理解と交流を深めました。



海外の企業やイベントでの連携事例も

スイスで開催の「Designers' Saturday 2018」に出展

2018年11月

スイスのランゲンタールで開催された「Designers' Saturday 2018」に、生産デザイン学科の学生20名が作品を出展しました。17回目となる今回は、企業の他、将来が期待される若手としてスイス国内外から9大学が招待され、日本の大学からは本学が唯一、出展しました。準備・設営を含め海外での出展を学生たちが自力で行ったこと、欧州の名門大学と肩を並べ互いに刺激し合えたこと、そして、さまざまな国からの来場者への対応を自ら行ったことなど、学生にとっては貴重な経験となりました。特にバイヤーと直接対応を迫られてその場で自分の作品をアピールしたことは、学生にとっては初めてのことで、圧倒されながらも、今後に生きる手応えをつかんだようでした。



学生25名のアート作品がロシアに招待展示

2018年2月-3月



武田薬品工業ロシア法人による文化事業の一環で、日本とロシアの若手アーティストによる展覧会「克服」が開催され、本学の学生（助手を含む）25名が出展しました。日露文化交流年として開催されたもので、サンクトペテルブルクとモスクワの2都市で実施。ロシア側はイリヤ・レービン名称サンクトペテルブルク国立絵画・彫刻・建築アカデミーが参加し、本学の学生は、作品運搬・展示にかかる諸費用をロシアから受けて出展しました。また、日本画3年・青田菜美さん、油画4年・高橋鮎子さん、大学院博士1年・WU Qiongさんの3名がモスクワへ招待されたほか、展示会場サイトのトップページには、大学院日本画1年・Yue Jia Yiさんの作品『もし浮世絵の人々が現代社会を旅したら』が使用されました。 ※学年表記は当時のものです。



●フィンランド● アルト大学との交流 | 2017年12月

同じ領域で交流し、専門性を高める

テキスタイルデザイン専攻の学生9名と、フィンランドのアルト大学デザイン学科ファッション専攻の学生3名による交流プログラムイベント「Discovery in Process」が、21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3にて開催されました。両校学生の作品を展示、発表したほか、プロフェッショナルを交えたパネルディスカッションを通じて、両国の相互理解と文化交流を深めました。

また、インテリアブランドのアルテックが主催したフィンランド独立100周年の記念イベント「FIN/100」では、アルト大学で学んだ卒業生・在学生計4名が「若きテキスタイルデザイナー達のフィンランド留学体験」をテーマに、フィンランドで学んだことや日本との違いなどを滞在中の思い出を交えながら語りました。また次年度にも、新たな交流を予定しています。

●アメリカ● ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン特別講義 | 2017年6月

世界トップ美大の講義に200名

アメリカ屈指の名門美大として名高いロードアイランド・スクール・オブ・デザイン（RISD）から教職員が来学し、グラフィックデザイン学科の学生向けに特別講義が行われました。世界の一流美大における教育に触れられるとあって、会場は200名を超える学生で埋め尽くされました。講義では

同校の教育の実情が紹介され、質疑応答では、挙手した学生全員が英語で質問をするなど、グローバル意識の高さを印象付けるイベントとなりました。講義後には本学学生の作品を鑑賞するなどして交流しました。



このとき質問に立った学生は、次年度に交換留学生として行く予定です。

●タイ● シラパコーン大学との交流 | 2012年3月、2018年8月

紙に着目した素材研究で合同展

本学最初の海外協定校であるタイ王国シラパコーン大学とは、絵画学科教員を中心に36年間、さまざまな交流を深めてきました。2012年にスタートした「ON PAPER」は「紙」をテーマにした協働のプログラム。絵画と彫刻

領域における教員および大学院生の合同美術展やワークショップを行っています。初回は油画の学生を現地へ派遣し、協働ミーティングやリサーチのもと「Paper boat」を制作しました。同年、学内に紙漉き工房が完成したのを機に、その翌年には本学にてタイの紙と日本の和紙を溶解したのち「紙」として再生させる試みが行われ、教員や学生がその紙で制作した展覧会も開催されました。今後もファインアートにおける国際的な取り組みとして、新たな交流プログラムが予定されています。



「ON PAPER」とは別の取り組みとして、今年8月に、絵画学科5名（油画院2名、版画、日本画、彫刻各1名）がタイ・ナコーンパトナム校舎に招待され、レジデンスプログラムとして約10日間、ラオス、ベトナム、タイの学生と協働制作し、成果展を行いました。このように、国際的な実践の場は多岐にわたります。



学生が国際的な受賞や世界的企業での商品化を実現

「デザイン界におけるオスカー賞」に連年受賞

2017-2018年

海外で活躍できることが真の国際化であるという考えのもと、海外のコンペティションに対応した教育を進めてきた（P.10-11参照）結果、大きな国際コンペでの受賞や海外企業での採用が次々と実現しています。「デザイン界におけるオスカー賞」ともいわれるドイツのiFデザイン賞には、才能（タレント）賞を受賞した17年に続き、今年卒業したプロダクトデザイン・曹永鈔世さんが卒業制作作品で受賞。他にも2017年、米国・ニューヨークのデザイン系情報サイトCore77が主催するCore77デザイン賞の学生部門賞や、韓国のアジアデザイン賞を受賞する学生が出るなど、卒業生のみならず、在学中の作品から海外コンペでの映える受賞が続いています。



「Listell」曹永鈔世さん、自動的に音声記録することで訪問介護の現場をサポートする、AIスピーカーならぬAI「リスナー」。

海外の老舗インテリアブランドで学生の作品が商品化

2017-2018年



2017年に、スウェーデンの老舗インテリアファブリックブランドであるSvenskt Tenn（スウェンスク テン）が主催した「Ten Textile Talents」に、18年テキスタイルデザイン卒業・宇都宮琴音さんと、18年大学院テキスタイルデザイン修了・鶴戸春花さんが参加しました（参加時は在学中）。本企画には世界から5大学が招かれ、各2名ずつが参加。アジアからは唯一本学だけでした。さらに、そのなかから本学の2名を含む3名の作品が選ばれ、ファブリックやソファカバーなどに商品化されました。2018年10月にSvenskt Tenn本店で開催された、スウェーデンと日本の国交150周年イベントでも宇都宮さんの作品（カーテン）がディスプレイされるなど、今年も国際的な展開を見せています。

国際性は日常で磨かれる

海外協定校

世界トップクラスの美術大学へ交換留学生派遣の実績



11月、新たに欧州の2大学と協定

- スイス●ローザンヌ美術大学
現役デザイナーが学校運営の要職を担い、IKEAなどの企業が設備投資に協賛する1821年創立の由緒ある美術大学です。(P6参照)
- オーストリア●ウィーン応用美術大学
ヨーロッパ初の工芸美術学校として創立。ファッションデザインの授業には、国際的に著名なファッションデザイナーが教壇に立つことで知られています。

国際交流室の取り組み

年間435名の留学生を受け入れ、学内外に交流の場

*2018年5月1日現在



上=留学生に日本文化への理解を深めてもらうことを目的に、寺社参拝やお茶体験、見学ツアーを実施しています。
下=八王子市立健水中学校での授業「国際理解教育」に留学生を派遣するなど、地域貢献を実施しています。(写真は2018年11月)



全学生数の約1割の学生が海外留学生

大学院・研究生を含む本学への外国人留学生数は、交換留学生も含め435名。16カ国・地域の学生が籍を置き、共に学んでいます。その割合は全学生数の約1割に及び、日常的な交流を通して国際性が磨かれるのはもちろん、学生たちは多様な文化に触れ、知見を広げています。

八王子キャンパスにある国際交流室が海外協定校との連携の窓口になっており、留学生の受け入れと支援、また、海外で学びたい日本人学生の相談窓口となっています。本学の授業料内で、留学先で取得した成績・単位が認められる交換留学制度を利用して、毎年約20名の学生が海外協定校へ飛び立っています。「学生たちには、アートという共通言語があります。たとえ言葉は分からなくても、同じことに興味があれば伝え合うことに積極的ですし、イラストで表現することもできる。美大こそ、海外との壁がない学びの場といえるかもしれません(国際交流室 課長 石田一郎)」。



学生主体で年に2回開催される国際交流パーティー。ゲームや出身美大の話題などで盛り上げます。参加者数は毎回増え続けています。

交換留学生に奨学金20万円の給付

本学学生の、海外での学習・研究活動への参加を支援する独自の制度「多摩美術大学交換留学生奨学金」があり、1人あたり20万円が給付されます。

留学生として海外へ、また海外から多摩美へ

かねてより積極的な留学生の送り出しと受け入れを進めてきた本学には、多くの国・人数の外国人留学生や教員が在籍しています。日常的に異文化に触れられる、国際的な環境が整っています。

海外留学支援制度

2014年より官民協働で取り組む海外留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN」に計9名もの学生が選出

文部科学省主催の支援制度で日本代表として海外へ

「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」は、2014年からスタートした文部科学省主催、官民協働の海外留学支援制度です。将来グローバルに活躍する人材を育成するため、意欲と能力のある若者の留学支援を目的とし、返還不要の奨学金給付を行っています。同制度が発足してから、本学から計9名が採用されており、これは私立美大の中ではトップの実績です。平成30年度第8期は、全国応募学生1509名(244校)のうち、458名(133校)が合格する中、本学からは「多様な人材コース」の派遣留学生として大学院環境デザイン1年・大川翔吾さんが選出されました。



大川さんが留学している、ベルリン芸術大学。

第8期「トビタテ!留学JAPAN」選出でベルリン芸術大学に留学中

世界中に同じ領域を学ぶ友人ができた大川翔吾さん(大学院環境デザイン1年)

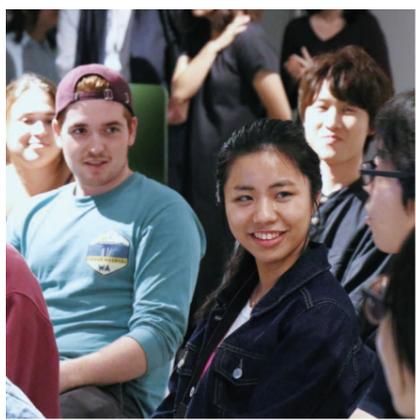
○履修中の授業は大きく3つで、「New Ground(デザインの新しい領域を探るメイン授業)」「Smart Material(素材研究や加工技術を扱うワークショップ型の授業)」そして、ドイツ語の授業といった内容です。New Groundでは、トルコで開催された「イスタンブールデザインビエンナーレ」に参加し、現地でワークショップも行いました。こうした機会には積極的に参加したいと思っています。ここに来て、欧米と一口にいっても各国でその文化が大きく異なることを実感しています。また世界中に同じ領域を学ぶ友人が持ったことで、概念ではなく、具体的な姿がイメージできるようになりました。こうした実感を持てたことは、今後の人生においてとても大きいと感じています。



左から大川さん、デンマーク、ロンドンから来ている交換留学生と。

学内交流の取り組み

隔週水曜開催・参加自由の学内交流“Hot and Cool Design Night”



雰囲気はまさに「学内留学」

「学内で、もっと気軽に英語のコミュニケーションに触れる場を」という目的から、隔週水曜日に実施されている“Hot and Cool Design Night”。プロダクトデザイン専攻が主催する交流会ですが、どの学科生でも参加することができます。この日は、留学生たちが自国の美術大学のプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して理解を深めました。プレゼン終了後は、参加者全員が英語で自己紹介をし、ヴァーリヘイ・ユディト先生(P.11参照)手作りのお菓子やチーズなどが振る舞われ、立食による交流を楽しみました。

参加する学生たちは、留学生との交流だけではなく、「英語に耳を慣れさせたい」、「他学科の学生と交流したい」など、それぞれの目的で参加しています。今後、ますますボーダーレス化するデザインやアートの世界を見据えて、学内交流においては日常的に国際性を意識させるためのさまざまな工夫と、継続的な取り組みがなされています。



出身の美大や自国での生活を、映像やイラストを用いて説明をする留学生たち。写真で笑わせる場面もあるなど、気楽な空気が魅力です。

世界でも珍しい大学主催の公募展「東京国際ミニプリント・トリエンナーレ」



2018年に行われた第6回の授賞式の様子。

版画作品を3年ごとに世界中から募集し、その時代の最新作を調査し紹介する国際公募展です。過去の応募作品の中から約8000点が、学術的資料として美術館にアーカイブされています。第6回となる2018年は94カ国・地域から1927名の応募があり、10月、多摩美術大学美術館にて、入賞19点を含む324点が展示されました。授賞式には各国から作家が来日し、シンポジウムが開催されました。国際的なアートシーンにおいて本学の存在感を示し、世界の版画の今を知ることでできる公募展です。

目的に対応した語学教育

全学生対象 | 共通教育科目の特徴

就職や留学などのゴールに合わせて 組むことのできるカリキュラム

八王子キャンパスの全学生を対象にした英語教育は、各個人の習熟レベルと将来的な目的に合わせた科目が用意されています。学生は入学後に受ける英語テストのスコアから自身のレベルを確認し、「作品を海外で発表したい」「留学したい」といった目的に合わせて、ロードマップを参考に履修科目を選択することができます。どの習熟レベルにもTE(英語で行われる授業)、TJ(日本語で行われる英語の授業)があり幅広い選択肢から授業を選ぶことができるほか、アートやデザインに関する英語を重点的に学ぶ「English in Art & Design」、自分の作品を海外で紹介する際に、使用画材や素材、コンセプトといった特有の語彙や表現を学び、実際に英文ポートフォリオを作成する「ポートフォリオ・ライティング」といった、より実用的な内容が用意されているのが特徴です。また、統合デザイン学科の推薦入試においては英語の外部検定試験を採用しており、グローバルな活躍を目指す受験生に門戸を広げています。



八王子キャンパスで学ぶ新入生全員に配られる『2018年度 共通教育 英語オリエンテーションブック』より「ロードマップ」のページ

出発点	1年次	2年次	3・4年次
TOTALスコア 350点以下	英語(ベーシック)TJ…文型や文法をもう一度学ぼう 英語(ベーシック)TE…会話やリスニングの基礎力を身につけよう	英語TJ…読解力・理解力を高めよう 英語TE…会話やリスニングに慣れよう	英語(アドバンス)TJ…総合的な英語力アップをめざそう 英語(アドバンス)TE…より高い運用力をめざそう 会話中級…会話は「慣れ」が大事です。会話の練習を続けよう
TOTALスコア 351~579点	英語TJ…読解力・理解力を高めよう 英語TE…会話やリスニングに慣れよう	英語(アドバンス)TJ…総合的な英語力アップをめざそう 英語(アドバンス)TE…より高い運用力をめざそう	会話中級…会話は「慣れ」が大事です。会話の練習を続けよう プレゼンテーション英語…英語の自己表現力を伸ばそう ポートフォリオ・ライティング…作品を英文で説明するために、キャプションやパラグラフの書き方を学ぼう
TOTALスコア 580点以上	英語(アドバンス)TJ…総合的な英語力アップをめざそう 英語(アドバンス)TE…より高い運用力をめざそう	会話中級…会話は「慣れ」が大事です。会話の練習を続けよう 会話上級…会話は「慣れ」が大事です。会話の練習を続けよう	プレゼンテーション英語…英語の自己表現力を伸ばそう ポートフォリオ・ライティング…作品を英文で説明するために、キャプションやパラグラフの書き方を学ぼう 英語スタディ・スキルズII…外資系企業や多国籍企業で働くためのスキルを身につけよう

会話ができるようになりたい
将来海外で働きたい

進学・就活生対象 | 就職課の取り組み

TOEIC®対策や 受験料一部負担

TOEIC®は今や、多くの有名企業が入社時の英語能力の基準として採用している検定試験です。近年、英語を一部あるいは全部門で公用化する企業が増加傾向に



15年続く週3回の英会話サークル

ランチしながら自由におしゃべり「チットチャットクラブ」

週に3回、お昼休みにお弁当を持ち寄り、英語でコミュニケーションを楽しむサークルがあります。本学で48年間英語を教えた経験を持つ大道文字名誉教授が立ち上げたサークルで、今年15年目を数え、誰でも気軽に参加できます。あ

る日の会合では、学生が作った映像作品をみんなに披露したり、「茶道で用いる茶花にはどんな文化背景があるのか」といった幅広いテーマで盛り上がりました。英語を日常的に親しむことができる貴重な場となっています。



参加自由で、和気あいあいと英語でのおしゃべりを楽しんでいます。

TOEIC®から海外コンペ対策まで

就職を有利にする英語検定試験対策から、海外でのコンペやプレゼンテーションに必要とされる対策に至るまで、目的に対応した実践的な語学教育を行っています。

全学生対象 | オープン科目の場合

*オープン科目…各学科が開講する「専門教育科目」のうち、所属学科以外の学生も履修できる科目のこと

国際的なデザイン協会理事の先生から直に学ぶ授業

デザインやアートを 世界的視点から学ぶ

● **デザインリレーション**
生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻
担当=ヴァーリヘイ・ユディト教授

国際的なデザイン協会の理事を歴任し、世界で活躍するデザイナーの育成に力を注ぐユディト先生の授業では、デザインやアートなどの文化的背景やヨーロッパにおける若手デザイナーたちの考え方など、毎回学生にとって興味深いテーマを取り上げ、多角的な視点やアイデアの起点を学びます。そのため語学の習得を目的としない留学生の参加が多いのも特徴です。留学を考えているという学生は、「耳を慣れさせたいと思い選択しましたが、純粋に内容が面白いので、英語がスッと入ってきています」とのことでした。「この授業では、英語による説明の後に、必要であれば日本語のフォローをしています。デザインを取り巻く環境はとても複雑になっていて、これか

らはさらにサイエンス、建築などボーダーレス化がトレンドとなります。興味を深め問題を多角的に捉える目を持ち、自分の未来を思い描くことが重要です(ユディト先生)。



「英語の授業という感覚ではなく、アートの歴史や新たな見方といった興味深い話を、たまたま英語を使って聞いているという感じだ」というように、学生はユディト先生の講義を熱心に聞き入っていました。

所属学科生対象 | 専門教育科目の場合

デザイナーの思考とニーズを踏まえて開発された授業

海外コンペに挑戦 するための基礎作り

● **プロダクト英語**
生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻
担当=レイモンド・ロッカー非常勤講師
ヴァーリヘイ・ユディト教授

● **テキスタイル英語**
生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻
担当=レイモンド・ロッカー非常勤講師

所属学科生対象の科目では、専門に特化したテーマや用語を多用した内容でより実践的に進められます。「プロダクト英語」においては時計や車、文具といった作品を、「テキスタイル英語」ではファッションやインテリア、デザイン史などテキスタイルに関するテーマを取り上げて分析したり、先生が話す情景を絵で表現するなど、学生にとっては普段学んでいる分野を扱うため取り掛かりやすい内



学生からは「たとえ片言でも伝えたいという気持ちがかみ、やる気にさせられます」「こちらの表現のほうに相手に伝わるよ」といった、具体的な指導をいただけるのがありがたいです」といった感想が、それぞれのレベルに応じてステップアップしています。

専門用語を学び、 プレゼンまで行う

● **English in Graphic Design I・II**
グラフィックデザイン学科
担当=ヤンス・フィンケ非常勤講師、石黒真理子非常勤講師、倉田麻里非常勤講師、下川舞子非常勤講師、村松理恵非常勤講師

● **English in Integrated Design I・II**
統合デザイン学科
担当=ヤンス・フィンケ非常勤講師

グラフィックデザイン学科、統合デザイン学科の学生を対象にした授業では、それぞれの領域に即したテーマを学び、テキスト講読やグループディスカッションを通じて英語の習得を目指します。各学科とも、最終的には英語で自分の作品のプレゼンテーションを行うことを最大の目的としています。受講した学生は、「アートやデザインに関するテーマなので興味深く、また、覚えておくと便利だなと思う専門用語がたくさん学べます。この英語授業に限らず、多摩美ではいかに学ぶことを楽しめるかといった工夫が随所に盛り込まれていると感じています」と、授業の感想を語りました。



この日行われた「English in Integrated Design II」の最終プレゼンでは、これまで学んだ成果として、原稿を読まずに堂々とスピーチする学生も。受講した学生からは、「将来、作家活動もしくは就職するにしても、有利な要素を増やしておきたい」と意欲的な声が多く聞かれました。

日本を代表する作家たち

世界で活躍する卒業生

日本の文化芸術の担い手として多くの卒業生が世界に派遣されています。その経験は、作家としてのグローバルな活躍にもつながっています。

文化芸術振興を担う人材育成制度

文化庁「新進芸術家海外研修」に直近8年間だけで約50名が選出

毎年数名が選出され海外留学へ

「新進芸術家海外研修制度(旧・芸術家在外研修)」とは、文化庁が、美術、音楽、舞踊、演劇、映画、舞台美術等、メディア芸術の各分野を対象に若手芸術家たちの海外研修を支援する制度で、研修員は一定期間海外の大学や芸術団体に実践的な研修を経験することができます。本学の卒業生たちは、毎年絵画、彫刻、演劇、映像、デザインとあらゆる分野から選出されており、今年度も6名が飛び立ちました。

成果発表展に卒業生4名が参加

この海外研修制度発足20年の成果発表展である「20th DOMANI・明日展」が、2018年1月から

国立新美術館で開催されました。この展示会に、99年油画卒業・雨宮庸介さん、04年彫刻卒業・盛圭太さん、05年彫刻卒業・中谷ミチコさん、09年大学院情報修了・やんツーさんが参加。内覧会では作家によるスピーチも披露されました。



海外研修経験者たちの成果展「未来を担う美術家たち20th DOMANI・明日展」で、スピーチをする中谷ミチコさん。

2008年「新進芸術家海外研修」選出でデンマークに滞在

作家としての足がかりに海外へ 町田久美さん(94年日本画卒業)

現代美術作家として作品を世に出す受け皿が少なかった時代に、海外という選択肢があっただけです。機会を得て、ドイツで個展を開くなど、研修を通じて発表の場が広がりました。



卒業後は国内外で個展やグループ展での発表を重ね、2008年に研修員としてデンマークへ、1年間の滞在制作を経験する。ニューヨーク近代美術館にパブリック・コレクションとして收藏されるなど、グローバルに活躍中。

世界に日本の文化を伝える交流使

文化庁「東アジア文化交流使」に卒業生2人が決定

今年度選ばれて韓国・中国へ

「東アジア文化交流使」とは、日中韓の文化交流促進を目的に、文化庁が芸術家・文化人等を一定期間派遣し、実演やワークショップ等を通じて日本の文化を広く紹介する事業です。今年度の交流使に、07年大学院グラフィックデザイン修了・水江未来さん(情報デザイン非常勤講師)、04年情報デザイン卒業・毛利悠子さんが選ばれました。2019年1月、韓国に派遣予定の水江さんは、世界4大アニメーション映画祭すべてにノミネート経験が

あり、多数の国際映画祭での受賞や上映実績があります。現地では上映会やトークイベントなどを開催する予定です。2018年12月、中国に派遣予定の毛利さんは、磁力や重力、光などを表現したインスタレーション作品で、国内外の展示会に多数参加。2016年にはイギリスの「アポロ誌」で取り上げられるなど、世界的に活躍中です。中国各主要都市で現地のアーティスト等へのインタビューや、トークイベントを開催する予定です。すでに国際的な実績を持つ二人に、国からの高い期待が寄せられています。



10月10日、「東アジア文化交流使」指名書交付式にて文化庁長官・宮田亮平さんと水江さん、毛利さん。

多摩美校友会の国際的な活動

100名以上在籍! ニューヨーククラブ

マンハッタンで15周年記念の作品展を開催

2003年に発足した多摩美術大学校友会のニューヨーク支部・ニューヨーククラブは、2018年10月、ニューヨーク・マンハッタンの天理ギャラリーで、同クラブ主催の展示会「ホーム・アウェイ・フロム・ホームXIV」を開催しました。現在会員は100名を超え、本展には19名のアーティストが参加。ニューヨークという世界的アートマーケットでの

研鑽がもたらす、自らの殻を破るような創造の成果の発表を目指し、それぞれの手法や主題を自由に展開しました。また、12月には同クラブ会員のアーティスト13名とその仲間たち5名による展示会「Love, Family and Friends」が、ニューヨーク日本総領事館の広報ギャラリーで開催されるなど、精力的に活動中です。



左=ニューヨーク日本総領事館で開催された展示会のDM。
下=同展との共催で、共通教育・深津裕子教授らが、共同研究「地域社会と協働した葛植物を活用したサステナブルデザイン研究」の成果を発表しました。



第4回 企業の人事担当者・卒業生に聞く 多摩美への期待と実績



多摩美出身者は、ビジネスの最前線からどのような評価を受けているのでしょうか。また、その卒業生たちが学んだ多摩美での4年間は、ビジネスの現場でどう生かされているのでしょうか。さまざまな業界で活躍する企業人たちに、多摩美に求められる期待と実績について尋ねました。

本記事は、連載企画です。さらに詳しい内容や他企業情報はWebでご覧になれます。

メーカー

オリンパス

オリンパス株式会社 = 医療事業・科学事業・映像事業の3つの分野で、内視鏡、顕微鏡、デジタルカメラ、録音機などの光学機器、電子機器を製造・販売。消化器内視鏡分野では世界シェア70%以上を占める。

人の行動を考え 課題解決に導く学びが 医療の現場に活かしている

デザインセンター センター長

高橋 純さん(1989年 | プロダクトデザイン卒)



例えば女性向けカメラをテーマとするなら、「かわいくて機能が簡単なものを作る」のではなく、「いまの女性たちの指向や動向を調査・分析し、それを満足させる商品をエンジニアと共に作り上げる」のが、当社のデザイナーの仕事です。デザイナーはユーザー本人も気づいていないようなニーズを引っ張り出すことが得意だし、イメージをスケッチで表現することができるので、あらゆるシーンで役に立つ。特に多摩美は、このようなグループワークや思考力の訓練を当たり前授業に取り入れ、学生がそれを習得している点が大きな強みだと思います。

デザインセンター 商品デザイングループ 課長代理

戸井田 真希さん(2004年 | 情報デザイン卒)



3年ほど前からオリンパスの軸製品の一つである内視鏡ビデオスコープシステムのGUIデザインを担当しています。医療の現場で、医療従事者がどう思いどう操作するのか、ワークフローを観察・分析しながら、そこに課題をデザインで解決するのがデザイナーの役割です。情報デザイン学科では、一人ではなくチームで意見を出し合いながらモノづくりをする魅力を知り、また授業では、多角的に見る視点と、自ら課題を見つけ解決に導くことを学びました。あるグループワークの課題で、先生から提案内容を考え直すよう指導され、落ち込んだことがありました。ですが、その時のチームの一人が、「あの先生はそう言うけど、他の人はどう思うか聞いてみよう」と言った言葉に衝撃を受けたんです。これこそ、一歩引いて多角的に見る視点、人がどう思い行動するかを考えて答えを生む、ということですね。この経験は、今の仕事への大きな糧となっています。



メーカー

味の素

味の素株式会社 = 「味の素」をはじめとする調味料や加工食品など、食品を中心にアミノ酸をベースとした研究に取り組み、「調味料・食品」「アミノサイエンス」そして「医薬」「健康分野」などの事業を展開。アジアを中心に世界各地にグループ企業や工場を持つ。

パッケージをはじめ、CMやグラフィックを考え、作り、伝える楽しみ

広告部 クリエイティブグループ長

小原 司さん



メディアや人の多様化に伴い、業務内容もWebやSNS、PRイベントなどと拡大しています。それらを統合したディレクションを行って、テレビCMでは届かない人たちにもきめ細やかにお伝えするのが私たちの仕事です。当広告部のクリエイター職においては、ものごとを俯瞰で捉え、企画し、伝え、社内外の人とコミュニケーションを取りながら引っ張っていきけるような人を求めています。多摩美の人ならクリエイティブ力は十分信頼できるので、学生時代にぜひ、自分の言葉で伝える力を養い、強みを育てて、社会で活躍することを期待しています。

広告部 クリエイティブグループ

赤坂 由美子さん(2006年 | グラフィックデザイン卒)



現在は海外のスープや調味料、国内の通販用サプリメントのパッケージデザイン開発を中心に仕事をしています。味の素(株) 広告部でできる仕事は多岐にわたり、パッケージから、CM、グラフィック、動画など、コミュニケーション全体のクリエイティブディレクションを担います。いろいろなプロの方と関わりながら作り上げていく過程はすごく楽しいですね。多摩美では3年生からの専門課程で広告のアートディレクションを専攻し、商品やサービスを、いかに魅力的にわかりやすく伝えるかという考え方の基礎を学びました。作ったら終わりではなく、人に伝えるまでを課題として取り組んだ一連の捉え方が、特に今に役立っていると感じています。多くの方が日常的に接しているパッケージやCM等を通じて、自分の仕事世の中に広がっていくのは、とてもやりがいがあることだと感じますし、その人の暮らしや食事が、少しでもハッピーになることを願って仕事をしています。



FACE展2019で卒業生がグランプリ獲得

今回で7回目を迎えた、新進作家の動向を反映する公募コンクール「FACE展2019」において、12年大学院版画修了・庄司朝美さんがグランプリを受賞しました。また、審査員特別賞を86年油画卒業・小田瀧秀樹さんが受賞した他、大学院油画2年・町田帆実さん、同2年・宮山香和さん他5名が入選しています。2019年2月23日より開催の「FACE展2019 損保ジャパン日本興亜美術賞展」では、受賞・入選作品70点が展示されます。



庄司朝美 [18.10.23]

トピックス

多摩美術祭2018グランプリ獲得は「さわる展」

11月2日から3日間にわたって開催された「多摩美術大学芸術祭2018 in 八王子」。今年は約27000人が訪れ、大盛況で幕を閉じました。来場者投票により決定する「展示大賞グランプリ」を獲得したのは、「さわる展」でした。今回はAC部が審査員を務め、特別審査員賞に「国旗展」が選ばれました。



テキスタイルパフォーマンス2018「さわる展」

タマリバーズ vol.8「タマゾニア」上演

タマリバーズとは、2011年にPBLの一環として始まった、本学と複合施設・二子玉川ライズとの協働による地域連携アートプロジェクト。8回目となる今回、10月6日、7日の2日間にわたり二子玉川ライズのギャラリーにて『広場演劇「タマゾニア」～知らないヤツらと生きていく～』が上演されました。演劇は誰でも気軽に鑑賞できる他、ワークショップも実施。観客参加型のパフォーマンスを行いました。



「幼稚園から大学まで美術教育の流れを体感する展覧会」にPBL科目が参加
10月2日から21日にかけて開催された展覧会『幼稚園から大学まで美術教育の流れを体感する展覧会』

朝日新聞社との連携で誕生「KANTAN NEWS」

今年度取り組んできた朝日新聞社との産学共同研究成果の一環で、期間限定の新たなニュースメディア「KANTAN NEWS」が誕生しました。若年層に届けやすいよう、GIFアニメで、SNSを通じてニュースを簡潔に伝えるメディアです。これは情報デザイン・永原康史教授と清水淳子講師が取り組んできた「東京2020に向けた新しいニュースメディアのデザイン」を掲げる授業から形になったもので、情報デザインコース3年・須藤良美さんが制作しました。



[twitter] アカウント名 @kantannews
https://twitter.com/kantannews
[instagram] アカウント名 @kantannews
https://www.instagram.com/kantannews
朝日新聞デジタルでも順次公開されます。
[朝日新聞デジタル]
https://www.asahi.com/special/kantannews/

全国美術・教育リサーチプロジェクト2018—「美術の授業ってなんだろ?」の大学別展示ブースに、本学のPBL科目「コミュニティーアート2018」が参加し、相模原市立桜台小学校で行われたワークショップ作品を地域に向けて公開しました。期間中は多くの方がブースに足を止め、本学の取り組みについて知ってもらいたい機会となりました。

上月財団第15回クリエイター育成事業に学生3名が選出

コナミホールディングス創業者の運営財団、上月財団が実施する第15回クリエイター育成事業にて、油画4年・白駒多央さん、西尾侑夏さん、藏原尚美さんの3名が助成対象に選出されました。対象者には年額60万円が支給されます。デジタルアーティスト・イラストレーター・漫画家などを目指す若者を支援するこの制度に今回は219名の応募があり、30名選出のうち上記3名が本学の学生でした。白駒さんと西尾さんは昨年に続き2度目で、共同通信社から取材を受けた西尾さんの記事がWEBサイトに掲載されました。
https://ovo.kyodo.co.jp/news/biz/a-1192071

2018年度の卒業・修了制作展ポスター決まる

2018年度の卒業・修了制作展ポスター原案の審査会が10月3日に行われ、最優秀賞に大学院グラフィックデザイン1年・LU Jiahuiさん、優秀賞に油画3年・JIN Yeo Woolさんと日本画4年・松井一恵さんの2名が決定しました。11月7日には八王子キャンパスにて授与式が開催されました。



芸術学科の学生2名がキュレーターに選出
日本最大規模のアート見本市「アートフェア東京2019」の関連企画として開催される「Future Artists Tokyo」展に、本学から芸術4年・内藤和音さん、同

4年・長田詩織さんの2名が学生キュレーターとして選出されました。これは国内芸術系19大学によるプロジェクトで、学生キュレーターチームが作品選考から展覧会コンセプト作成、展示までを指揮します。本展覧会は、2019年3月7日～10日に東京国際フォーラムロビーギャラリーにて開催されます。

環境デザイン大学院生の設計施設がオープン

宮城県白石市の鎌先温泉周辺で、大学院環境デザイン2年・安倍弘晃さんが実施設計を行った交流拠点「粋 sui」が、9月15日にオープンしました。地元の食材をふんだんに使った軽食や、宮城県内の特産品の買い物を楽しめる施設で、地元の魅力を広める新たな顔として期待されています。



芸術人類学研究所【土地とカ】シンポジウム「物質と生命」(通算第6回)

11月10日、芸術人類学研究所と芸術学科(21世紀文化論)年次共催シンポジウムが八王子キャンパスで開催されました。「聖なる場所」と「イメージの発生」に続き、所長・所員全員が「物質と生命」の相互作用、「もの」と「ところ」の往還関係について報告と討議を行いました。学内外から満員に近い参加がありました(『Art Anthropology』14号に収録されます)。

内定者報告会、八王子・上野毛キャンパスで開催

八王子・上野毛の両キャンパスで就職支援のための「内定者報告会」が11月に開催され、4日間で202名の学生が参加しました。広告、ゲーム、インターネット、化粧品、テーマパーク、玩具などさまざまな業界に内定した4年生が就職活動を振り返り、貴重な体験談を披露。後輩からは、具体的なノウハウやポートフォリオの内容など、尽きることなく質問があげられました。

受賞

文化功労者に伊東豊雄客員教授
2018年度の文化功労者に、環境デザイン・伊東豊雄客員教授が選ばれました。日本の現代建築の発展に寄与しただけではなく、世界の建築文化の展開にも貢献したことが評価されました。

「第28回紙わざ大賞」で環境デザイン副手が受賞

紙の可能性を追求するアートコンペティション「第28回紙わざ大賞」にて、環境デザイン・陶山岳志副手の作品『霜柱』が大賞を受賞しました。この賞は製紙メーカーである特種東海製紙が主催するもので、紙を素材にした自由な発想の造形作品460点の中から選ばれた陶山副手の作品は、小石を支える紙製の繊細な五角柱を霜柱に見立てたもの。11月に東京交通会館で開催された入賞作品展にて展示されました。



ロンドンの短編映画祭「Straight 8」で卒業生が受賞

フィルムの映像コンペティション「Straight 8」にて、Directorを担当した18年情報デザイン卒業・石川結貴さん、Production Managerを担当した17年情報デザイン卒業・久保田明里さんの作品『GHOST』がゴールドを受賞しました。「Straight8」は、スーパー8という8mmフィルムで自由に撮影をし、撮影後のフィルム現像・編集なしで応募する短編映画祭です。

「星乃珈琲店絵画コンテスト」で学生が受賞

新しい才能の発掘を目的とする「第3回星乃珈琲店絵画コンテスト」にて、版画3年・山田溪樹さんの『coffee break』が優秀賞を受賞しました。同作品は12月に星乃珈琲立川若葉店で展示されました。

グラフィックデザイン助手がGolden Bee賞

モスクワで開催される国際グラフィックデザインイベント「Golden Bee 2018」にて、グラフィックデザイン・大場久恵助手がGolden Bee賞を受賞しました。また、大場助手は「第12回世界ポスタートリエントリーヤマ2018」にも入選し、8月から富山県美術館で展示されました。

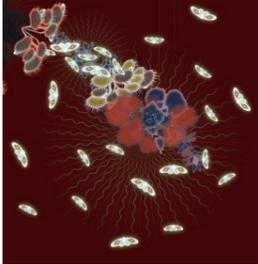
「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」で多数受賞

テレビ、ラジオCMの質的向上を目的に1961年より開催されてきた日本最大級のアワードにて、教員や卒業生など本学関係者が多数受賞しました。各部門よ

り、10年グラフィックデザイン卒業・上西祐理さんがアートディレクターとして担当したNTTドコモの『FUTURE-EXPERIMENT VOL.01 距離をなくせ。』、グラフィックデザイン・佐藤可士和客員教授、84年グラフィックデザイン卒業・齊藤和典さんがエグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクターとして担当した日清食品ホールディングスの『チキンラーメンアクのキムラー』、統合デザイン・岡室健非常勤講師がプランニングディレクターとして、07年グラフィックデザイン卒業・村越陽平さんがクリエイティブディレクターとして担当したロコモ チャレンジ! 推進協議会の『ロコモティブシンドローム啓発運動 -7年間で成し遂げたこと-』が、「総務大臣賞 / ACCグランプリ」に選ばれました。また、統合デザイン・佐野研二郎教授がアートディレクターとして担当したCULENの『新しい地図』が「ACCゴールド」に選ばれました。

「日本タイポグラフィ年鑑2019」で受賞・入選

日本タイポグラフィ協会が発刊する「日本タイポグラフィ年鑑2019」にて、本学関係者が部門別ベストワークを複数受賞しました。ブック・エディトリアル部門とインフォグラフィック部門に情報デザイン・中野豪雄



林宏香『強悍覚醒過程図鑑』より
『日本タイポグラフィ年鑑2019』(2019年4月刊行予定)
編集=NPO法人日本タイポグラフィ協会

非常勤講師、学生部門に大学院情報デザイン1年・林宏香さん、他卒業生が選ばれました。また、在学生も複数入選しています。授賞式は2019年4月に開催予定です。

第45回創画展で受賞・入選

日本画を対象に独創的表現を発表する公募展「第45回創画展」で、日本画・加藤良造教授が「創画会賞」を受賞しました。また、大学院・陳芑宇助手、大学院日本画1年・森田舞さん、84年大学院日本画修了・堀敏治さん、85年大学院日本画修了・松谷千夏子さ



ん、07年大学院日本画修了・須藤友丹さんの5名も入選。10月下旬より東京都美術館、京都・日図デザイン博物館、名古屋・愛知県美術館ギャラリーにて順次公開されました。

加藤良造「洞天山水」

卒業生が「ELLE DECO Young Japanese Design Talent」を受賞

ELLE DECO JAPANが選ぶ、日本人の若手デザイナー1人に贈られる賞Young Japanese Talentに、13年大学院テキスタイルデザイン修了・氷室友里さんが選ばれました。この賞は、インテリア、プロダクトデザイン、建築などの分野における日本の若い才能溢れるデザイナーに授与される賞です。

「アートアワードトーキョー 丸の内2018」で大学院生が受賞

若手アーティストの発掘・育成を目的とした現代美術の展覧会「アートアワードトーキョー 丸の内2018」

が9月に開催されました。これは、全国主要美大・芸大の卒業・修了制作展から厳選された作品を展示するもので、さらなる審査の上、大学院日本画1年・小瀬真由子さんがフランス大使館賞を受賞しました。

「シェル美術賞2018」で島牧彦審査員賞を受賞

次世代を担う若手作家のための公募展「シェル美術賞2018」にて、08年油画卒業・田中良太さんの作品『斥力』が、島牧彦審査員賞を受賞しました。今回、593名の応募の中から選ばれた同作品は、12月に国立新美術館で開催された「シェル美術賞展2018」で展示されました。



新千歳空港国際アニメーション映画祭で受賞

新千歳空港を会場に、世界中のアニメーション作品を一堂に集める「第5回新千歳空港国際アニメーション映画祭」が開かれ、応募総数2043作品の中から、12年油画卒業・若井麻奈美さんの作品『タンポポとリボン』が、審査員特別賞とロイズ賞をダブルで受賞しました。



平成30年度日本学生支援機構優秀学生顕彰で受賞

日本学生支援機構が、優れた業績を上げた学生を奨励・支援する学生顕彰に、文化・芸術分野でグラフィックデザイン3年・竹内康陽さんが大賞、同4年・橋本陽丞さん、同3年・中馬拓人さんが奨励賞に選ばれました。竹内さんは東京TDC賞2018で入選も果たしています。

国際パッケージコンペで学生が受賞・入選

「ASPAC Awards 2018 日本・アジア学生パッケージデザインコンペティション」にて、アジア決勝の結果、グラフィックデザイン4年・不破葉奈さんが日本パッケージデザイン協会(JPDA)賞、同4年・大隈ひかるさんがSuntory賞、同3年・行木穂実さんが優秀賞を受賞しました。また、入選・佳作にも本学の学生が多数選ばれました。

人事異動

新規採用(2018年11月16日付)
教務部国際交流室
摩庭啓人 書記



多摩美術大学美術館

多摩市落合1-33-1 | 10:00~18:00 | 火曜休館 | 大人=300円 / 大・高校生=200円



福沢一郎

12月15日[土]~2019年2月24日[日]
多摩美術大学美術館コレクション展
生誕120年記念
福沢一郎 —語りて屈さぬ絵画の地平—

美術界のリーダーとして活躍し、1991年に文化勲章を受賞した福沢一郎の生誕120年を記念して、本学が所蔵するパリ時代から晩年までの全作品が展示されます。関連イベントとして、シンポジウム「121年目の福沢一郎」が2019年1月19日に開催される他、学芸員によるギャラリートークが2019年2月2日、2月23日に開催されます。

2019年3月6日[水]~3月23日[土]
多摩美術大学博士課程展2019



展覧会・公演

李禹煥 名誉教授、油画 | 野田裕示 教授
Flash 1979/1988
10月6日[土]~2019年1月14日[月・祝]
ハラ ミュージアム アーク
油画 | 日高理恵子 教授
現代作家シリーズ vol. III
日高理恵子 木を、空を、見る
11月1日[木]~2019年2月12日[火]
六花亭札幌本店5F ギャラリー柏

油画 | 吉澤美香 教授
現代美術 in 豊川 series 4
吉澤美香展
12月15日[土]~2019年1月19日[土]
豊川市桜ヶ丘ミュージアム

堀浩哉 名誉教授、大学院 | 横尾忠則 客員教授、
芸術 | 田窪恭治 客員教授、油画 | 中村一美 教授、
野田裕示 教授、吉澤美香 教授 ほか
ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代
11月3日[土・祝]~2019年1月20日[日]
国立国際美術館

演劇舞踊デザイン | 岡田裕子 非常勤講師
第11回恵比寿映像祭
トランスポジション 変わる術
2019年2月8日[金]~2月24日[日]
東京都写真美術館ほか

演劇舞踊デザイン | 野田秀樹 教授
野田秀樹×勘九郎、シネマ歌舞伎
『野田版 桜の森の満開の下』
2019年4月5日[金]~
東京劇場(銀座)ほか全国で公開

油画 | 千葉正也 非常勤講師、
藏屋美香 非常勤講師(キュレーション)
「絵と、」vol.4 千葉正也
11月10日[土]~2019年1月12日[土]
gallery α M

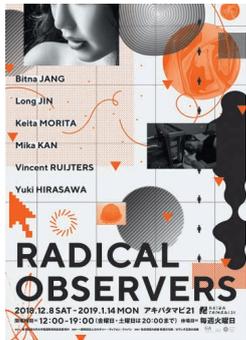
[卒業制作 | 学内展]
2018年度多摩美術大学美術学部
卒業制作展・大学院修了制作展
2019年3月21日[木・祝]~3月23日[土]
多摩美術大学八王子キャンパス

[卒業制作 | 演劇公演、学外展]
2019年1月12日[土]~3月17日[日]
※詳しくは卒業制作展案内パンフレットを
ご覧ください。

アキバタマビ21

タマビが運営する新しい創造の場 3331 Arts Chiyoda内にあるアキバタマビ21は、若いアーティストたちが展覧会を行うスペースです。卒業後のキャリア形成支援を目的としており、企画から広報物・アーカイブ作成まで自ら手掛ける企画展を、年間約8回開催しています。

千代田区外神田6-11-14 3331 Arts Chiyoda 201・202 | 12:00~19:00(金・土は20:00まで) | 火曜休場 | 入場無料



12月8日[土]~2019年1月14日[月・祝]
第73回展「Radical Observers」

既存の物事やフレームを疑い、読み替え、絶えず自身の内で更新してゆく「観測者」としての姿勢を実践する6名の作家による展覧会。

出品作家=ジャン・ピンナ、ジン・ロン、盛田溪太、菅実花、
ヴァインセント・ライタス、平澤勇輝
キュレーター=三宅敦大

2019年1月21日[月]~2月17日[日]
第74回展「終わらない始まり」

誰もがたづねることができ、交換可能であることを示すために、空間のなかで「なってしまったこと」だけで展覧会を構成しようとする試み。

出品作家=今井貴広、内山聡、久野真明、仁禮洋志、
久村卓、光藤雄介

アートテーク

八王子キャンパスの中心に位置する、知と創造の多面的複合施設 アートテーク(Art-Theque)は2015年、旧図書館跡地に建設された施設です。ギャラリー、80周年メモリアルルーム、自由デッサン室(石膏室)、大学院博士後期課程アトリエ、個人コレクション・アーカイブ、竹尾ポスターコレクション・ギャラリー、収蔵庫などで構成されています。

八王子キャンパス内 | 10:00~18:00 | 日曜休館 | 入館無料



2018年1月にYCAMで行われたアップデート版制作作業の様子

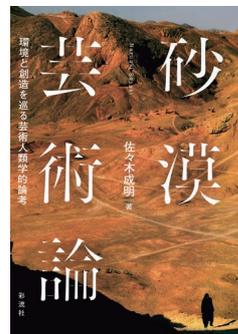
2019年1月9日[水]~1月11日[金]
三上晴子
「Eye-Tracking Informatics Version 1.1」
—多摩美×YCAM 2018年度共同研究成果展
デジタルメディアの特性を生かした作品の保存修復さらにはその共有とバージョンアップのための新たな方法論を検討するために、2018年度学内共同研究の一環としてYCAMと制作を行った、故・三上晴子元教授の『Eye-Tracking Informatics』(2011)のアップデート版を展示。

新刊

Naoto Fukasawa
EMBODIMENT

深澤直人 著
(統合デザイン | 教授)

Phaidon Press | 3月23日刊 | £59.95



砂漠芸術論
環境と創造を巡る
芸術人類学的論考
佐々木成明 著
(メディア芸術 | 准教授)
彩流社 | 10月18日刊
3,200円+税

大拙

安藤礼二 著
(芸術 | 教授)
講談社 | 10月25日刊
2,700円+税



未来の「サウンド」が
聞こえる
電子楽器に夢を託した
パイオニアたち
YANO SATORU 訳
(共通教育 | 教授)
アルテスパブリッシング
11月26日刊 | 2,400円+税

ニュー・ダーク・エイジ
テクノロジーと
未来についての10の考察

久保田晃弘 監訳
(情報デザイン | 教授)
NTT出版 | 11月29日刊 | 2,600円+税



「TAMABI NEWS」では受賞や活動報告を募集しています。総合企画室(TEL=03-3702-1168/e-mail=news@tamabi.ac.jp)までお知らせください。



最新情報は www.tamabi.ac.jp をご覧ください

多摩美術大学 広報「TAMABI NEWS」2018年12月25日発行 第27巻 第4号 通巻80号
発行=多摩美術大学 東京都世田谷区上野毛3-15-34 電話=03-3702-1141(代表) 編集=総合企画室 協力=村松丈彦

